

○地震被害想定調査では、ボーリングデータ等を基に作成した地盤モデルと対象断層ごとに計算した地震波形により、震度分布図・液状化危険度分布図を作成し、人口・インフラ・耐震化などの社会条件を踏まえ、地震被害を想定

地震動の予測

被害の予測

地盤モデル

作成済

- ・ボーリングデータ等
国や市町などから
約11,200本収集
- ・メッシュ単位
250mメッシュで作成
※金沢市の人口集中
地区は50mメッシュ

対象断層選定

今回検討

- ・第1回部会（4/19）
今回の地震を踏まえた
断層モデルの追加
- ・第2回部会（8/29）
長期評価を踏まえた
被害調査対象断層の
検討

地震波形計算

地震波形(揺れの強さ、速さ、長さ、周期等)については、首都直下地震や南海トラフ巨大地震などの被害想定計算事例を参考に、対象断層ごとに計算を行う。
特に海域の断層については、令和6年能登半島地震の地震波形も参考に計算を行うこととする。

地震波形計算については、専門的な知見を要するため、地震工学分野の専門委員の意見を踏まえ検討

震度分布図 液状化危険度 分布図

ボーリングデータ等を基に作成した地盤モデルと対象断層ごとに計算した地震波形により、震度分布図および液状化危険度分布図を作成

被害想定算出

震度分布図および液状化危険度分布図に基づき、人口・インフラ・耐震化などの社会条件を踏まえ、調査対象断層の想定シーンごとに、市町単位で人的・建物・ライフライン被害、生活機能支障など、約40項目を定量評価
＜想定シーン＞
①冬・朝5時
②秋・昼12時
③冬・夕18時
④正月・夕18時
⑤GW・昼12時